



黒田教育長の挨拶

東伊豆町は、静岡県伊豆半島東海岸の中央に位置し、天城の山並みを背に伊豆大島をはじめとした伊豆七島を望み、豊かな自然に恵まれた人口12,245人(平成31年1月31日現在)高齢化率44.6%の小さな温泉まち。この町には20万年前頃まで活動していた天城火山の溶岩が波の浸食をうけ、大きな二つの岩が小さな岩をはさんだ奇岩

はさみ石(伊豆半島ジオパーク)の「」がある。そして、この地域をトモ口崎と呼んでいる。

この町でユニークな生涯学習する25名の東伊豆町友路(ともろ)学級が平成31年2月25日(月)、東伊豆町役場で閉級式を開催した。黒田種樹教育長が準備された駒を回しながら「生涯学習は持続して学ぶことが大切である」と挨拶された。続いて、1年間活動した各事業の報告があった。



学級生の自主運営

東伊豆町友路学級は、生涯学習推進の基本理念である『心ゆたかな人』を目指し、『学び(自分を磨く)』『つなぎ(人間関係を広げる)』『生かす(人のため、地域のための活動に取り組む)』ことを目標に活動している。《友と生涯学ぶ路》の意味が込められ、学級生が自ら企画をし、そして運営していく生涯学習の学級である。運営方法は学級生の自主運営(企画立案、準備、当日運営など)各テーマで班を作り、自分たちで事業を決め、1年間実行する。本年度は健康、防災、町の歴史・ジオ、文化芸術の4つのテーマで募集して学習した。テーマから活動内容を考え、話し合い、学習活動から、生涯を通して“学ぶ姿勢”や“人や地域とのつながり”を大切にすることをこの学級活動を通じて学んだ。また、趣味を楽しむ、教養を高めるなど、毎日の生活の中に楽しみや喜びを見つけ、健やかで生きがいのある生活を送ることを目的とし、充実した“人生の糧”にするそうだ。

<各事業の活動報告>

(1) 地元で開発された新スポーツの漬物石カーリングを体験(健康事業)



「つけもの石deカーリング」の体験

昨年度は東伊豆町シニアクラブ連合会で「長寿者が楽しめる軽スポーツ」を提案し、役場の健康づくり課と共同で開発した認知症予防に効果があるEGボールを体験したが、今年度は東伊豆町の北川雅子氏が開発した「つけもの石deカーリング」(漬物石カーリング)を東伊豆町立体育センターで体験した。

「つけもの石deカーリング」はすこやか長寿祭スポーツのカローリングに似ている。漬物石に車輪付けた大きさが違う種類のカーリングストーン(北川雅子作)で楽しく競技をした。

これらの新スポーツは町内の健康運動教室および生涯学習活動で楽しまれている。

(2) 霊峰富士、その成り立ちが育んだ「歴史と文化」観劇の旅(町の歴史・ジオ事業)



[富士山世界遺産センター](#)

[富士山世界遺産センター](#)

今回のバス研修は、富士宮にある平成29年12月末に開館したで富士山にかかわる様々なできごとや文化の写真や説明、富士山の成り立ち、四季折々の富士山の映像などを目で楽しみながら学んだ。

自由行動で浅間神社を見学したり、お宮横丁へ足をのぼしたりと、内容が盛りだくさんだったので「もう少し時間がほしかった」という学級生もいた。

担当班はスムーズに進行できるよう、念入りに打ち合わせや下見などをして、緻密な計画を立てたそうだ。

(3) 文化芸術の秋に西洋絵画を楽しく学ぶ(文化芸術事業)



[上原美術館主任学芸員の土森智典氏の講演](#)

[上原美術館](#)

秋といえば芸術、ということで、下田市にある近代絵画と仏像を中心としたの主任学芸員である土森智典氏の講演を町役場会議室で開催された。

美術館のお仕事や、西洋の作品の画法について、また、日本の浮世絵との関係など詳しく学べる、貴重な機会となった。絵画のカードを見ながら話し合いをして、同じ絵でも人によって抱く印象が違うことがわかった。様々な視点から絵を見ることができ、ますます絵に引き込まれていった。

この講演会を機に、絵画を身近に感じ、楽しめるようになったと思う。

(4) 笑って元気！ 笑って健康！ 笑いヨガの健康体操(健康事業)



[笑いヨガの健康体操](#)

「笑い文字」「笑いヨガ」と笑いのエキスパートである伊東市在住の鈴木多希子先生の公開講座が町役場会議室で開催された。

「笑い文字」や「笑いヨガ」の効果や、笑うことで私たちの体にとって良いことが数多くあることを学んだ。

笑いヨガの実践では、はじめはぎこちなく笑っていた参加者も、時がたつにつれて参加者同士ふれあい、心からの笑顔に変わっていった。

担当班から参加者に「笑い文字と笑いヨガのサークルを作りましょう」と呼びかけた。

日々の生活に少しでも笑いを取り入れ、楽しく健康な毎日を過ごせるように心がけたいと思う。

(5) 江戸城築城石 採石の痕跡を語る！(町の歴史・ジオ事業)



東伊豆江戸城築城石石丁場について語る杉本充伯氏



築城石に関するたくさんの資料展示

「江戸城築城石 採石の痕跡を語る！」(主催:東伊豆町友路学級 後援:東伊豆町江戸城築城石遺跡保存会)伊豆情報企画室 杉本充伯氏の公開講座が町役場会議室で開催された。
 伊豆地域には江戸城築城石石丁場の矢穴石、刻印石、角石等が点在する。東伊豆町にも山中及び海岸線に数多くの貴重な石丁場等が自然のまま存在している。
 築城石に関心のある方が多く、町外からも参加されて会場はあつという間に満席となった。講座の他にも、築城石に関するたくさんの資料を展示し、皆さん興味津々と閲覧していた。
[東伊豆江戸城築城石石丁場](http://www.chikujohseki.com/) 詳細はのHP (<http://www.chikujohseki.com/>)

(6) 自らの命は、自ら守る(防災事業)



粕谷宏幸氏の防災講座



防災食の調理

「自らの命は、自ら守る」と題して、静岡県賀茂地域局危機管理課主査 粕谷宏幸氏の防災講座が、東伊豆町保健福祉センター(調理室)で開催された。
 南海トラフ巨大地震の最大クラスの地震想定では、東伊豆町の津波は最大14m、平均8m、到達時間15分、震度は5強～6弱、津波浸水想定地理を学んだ。また、相模トラフ巨大地震の最大クラスの地震想定では、東伊豆町の津波は最大11m、平均8m、到達時間3分。そして、津波浸水想定地理を学んだ。
 保健福祉センターの前田祐実栄養士から指導を受けて、防災食を調理しました。ポリ袋を使うことによって、調理時間の短縮や洗い物を増やさない工夫がされており勉強になった。

<取材後記>

女性だけの学級生が自ら幅広い分野で企画し、そして運営していく生涯学習の「何でも学級」から男女共同で各テーマの班を作り、自分たちで事業を決め、1年間、全ての事業を学級生だけで学習するタイプの「友路学級」へと編成したのが平成22年だそう。当初、学級生は50名であったが、平成30年度は25名に減少しており、70～90歳の超高齢者で占めている。減少した原因として、(1)「何でも学級」で活躍していた世代が超高齢化になり参加できなくなった(2)活動する時間帯が平日の昼間であるため仕事をしている人達が参加できない(3)学級生だけで生涯学習を活動していたので町民に友路学級が認知されていない等が考えられる。

平成30年度は、友路学級の活動を多くの人達に周知してもらうために外部講師の講座は公開講座とし、案内を回覧板から東伊豆町の情報配信メールや地方新聞で行った。その成果があり、新聞を見て参加された方が数名いたそう。また、公開講座の開催日を休日にしたので多くの人々が参加できるようになったらしい。この取材で感動したのは、学級生だけで学習するクローズドタイプから多くの人達が参加できるオープンタイプの活動に1歩踏み出したことと、学級生の中から学んだ知識を地域のために活かす講師が出現したことだ。

安倍晋三首相が新元号である「令和」について、「厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人一人の日本人が、明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる。そうした日本でありたい」と説明している。これを生涯学習に言い換えると、令和は「一人一人が学んだ知識を人のため、地域のために大いに活かすことができる。そうした友路学級でありたい」と感じた。令和の友路学級は「友と生涯学ぶ路」から「友と生涯学

び、活かす路」へと変革することでしょう。

取材：生きがい特派員 東・南・西伊豆地区
担当 白神時雄